

学び方のスキル＝「個別最適な学びのスキル」「協働的な学びのスキル」

「よりよい学び」の実現に向けた複線型の授業の中で、児童が発揮できるようにしていく力

	低	中	高
全体的なイメージ	先生や友達と一緒に、色々な学習方法に慣れる（知る）→ <u>慣れる・一緒に決める</u>	様々な学び方を選んだり、自分で決めたりできる→ <u>自己決定</u>	自分に合った学び方を目的に応じて調整できる→ <u>自己調整</u>

個別最適な学びのスキル

	低	中	高
1 学習の見通し （「流れ」と「活動内容」の視点）	先生が伝えた学習の流れが分かり、最後まで学習することができる。	学習の流れを自分で選んだり決めたりすることができる。	自分の課題に応じた学習の流れを決めることができる。
※学習の見通し・・・「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→「振り返り」のこと。学年に合わせて文言を変えて、全学年で統一する。			

	低	中	高
2 めあて・課題の設定	めあて・課題を見て、友達や先生と一緒に立てることができる。	自分で学習課題を立てることができる。	自分の学びに応じためあてや学習課題を決めることができる。

	低	中	高
3 学習の進め方	自分が興味のあることや学習したいと思うことを先生と一緒に探したり決めたりしながら、学習を進めることができる。	自分の興味や関心のあることに合わせて、学習することや調べることなどを選んだり決めたりしながら学習を進めることができる。	自分の興味・関心に合わせて、学ぶことや調べることなどを自分で決めたり調整したりしながら学習することができる。
①児童の興味関心			

②学習形態 (個、協働)	一人学びや学び合いを、先生と一緒に決めながら学習を進めることができる。	一人学びや学び合いを、自分で選んだり決めたりしながら学習を進めることができる。	一人学びや学び合いを、自分で決めたり調整したりしながら学習することができる。
③学習ツール (タブレット、ノート、教科書等)	学習でつかうものを、先生と一緒に決めながら学習を進めることができる。	学習でつかうものを、自分で選んだり決めたりしながら学習を進めることができる。	学習でつかうものを、自分で決めたり調整したりしながら学習することができる。
④時間	学習を進めていく時間を、先生と一緒に決めながら学習を進めることができる。(「一人で調べる時間を〇分にしよう」「〇分から友だちと～について話し合ってみよう」)	学習を進めていく時間を、自分で決めることができる。(「一人で調べる時間を〇分にしよう」「〇分から友だちと～について話し合ってみよう」)	学習を進めていく時間を、自分で決めたり調整したりしながら課題解決に向かうことができる。
⑤習熟度	自分に合った問題を、先生と一緒に確認したり決めたりしながら学習を進めることができる。	自分にあった問題を、自分で選んだり決めたりしながら学習を進めることができる。 例「基本の問題を繰り返しやってみよう。」 「少し難しい問題に挑戦してみよう」	自分の能力に合わせて、取り組む問題の内容や数を自分で調整することができる。
※調整しながら学習する→「自分にはこの方法が合っている」「前回～だったから・・・しよう」など、今やっていることが課題解決に向けた最も良い方法か確認したり、自分の学びに応じた意図をもって学習のしかたを選んだり決めたりして、主体的に学習を進めていくこと			

4 振り返り	低 (3つ)	中 (低学年の視点+1)	高 (中学年の視点+2)
振り返りの視点	<ul style="list-style-type: none"> ○分かったこと・できたこと ○分からなかったこと・できなかったこと ○友達から学んだこと 	(低) + 学び方 (一人学び、学び合い) がどうだったか 【学び方の視点での振り返り例】 「一人でじっくり～を考えることで、・・・が分かった」 「△△さんと話をすることで・・・が分かった」 「～を使うことで・・・ができるようになった」 「一人で考えていたときは～が分からなかったけど、自分から友達に聞きに行くことで・・・がわかった」	(低・中) + 次に生かすこと 【学習内容と学び方の視点】 「今日は～だった。次の学習では・・・」
※課題→まとめ めあて→振り返り ※基本は「学び方」の振り返り。学年が進むにつれて、学習内容に関する振り返りも入ってくる。 ※課題に対する「まとめ」は、課題が全体で一つの場合 (統一されている場合) は必ず入れる。			

協働的な学びのスキル

- ～大きな目的～
- あらゆる他者を尊重できるようにすること
 - 異なる考えをよりよく組み合わせて学びを生み出すこと

→ そのためにまずは、**コミュニケーションの素地**を養う

1 コミュニケーション	低	中	高
話すこと	声の大きさや速さに気をつけて話すことができる。	自分の伝えたいことを話すことができる。	必要に応じて資料を活用し、相手の反応を見ながら話すことができる。
聞くこと	聞きながら反応したり、最後まできちんと聞いたりして、感想をもつことができる。	自分の考えと同じか違うか比べながら聞いて、考えをまとめることができる。	自分の考えと比較し、自分の考えをまとめながら聞いて、考えを広げたり深めたりできる。

※学習指導要領国語科「話すこと・聞くこと」の指導事項より

※端末上で友達の考えを見たり、自ら友達に考えを聞きに行ったりすることを自己決定させる段階になってきたら、**意図**を持ったコミュニケーションや他者参照になるようにする。

～意図の例～

- 似ている考えにふれて、自分の考えをより確かなものにする
- ちがう考えに触れて、自分の考えをよりよくなる
- 友達の考えにふれて、新たな見方・考え方を知る
- 友達の考え方にふれて、自分の考えをさらにさらに広げたり深めたりする

【参考】

「『令和の日本型教育』の構築を目指して（答申）」文部科学省
 文部科学省有識者インタビュー「GIGAスクール構想と目指す学び」堀田龍也
 「学び続ける力と問題解決—シンキング・レンズ、シンキング・サイクル、そして探求へ」高橋純
 「個別最適な学びと協働的な学び」那須正裕
 「個別最適な学びと協働的な学びの考え方・進め方—個に応じた指導の一層の充実を目指して」加藤幸次

